



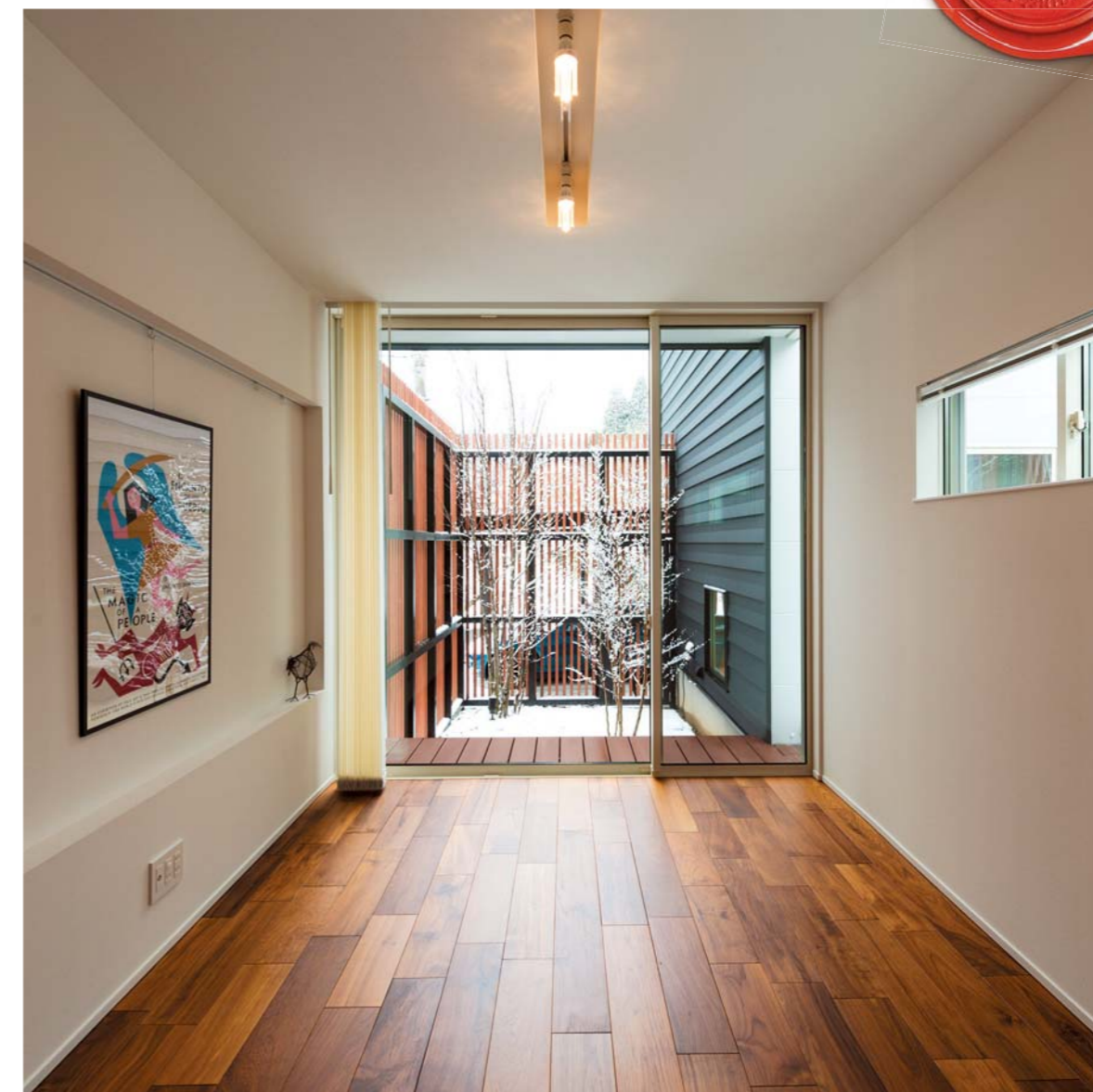
右頁／予備室から庭を見る。底側の壁面を全面サッシにすることで「抜け」が生まれ、空間として一体感が生まれている。上／側面は、平屋らしい横のスケールを際立たせるため横張りのガルバリウム鋼板に。余計な「線」を見せないよう継ぎ目のない一枚張りとされた。下左／中庭には白い外壁を採用。アオダモが影を落とすことを計算しデッキの切り抜き位置を決めた。ベンチを作ってエアコンの室外機を隠す工夫も。下中／6m弱のストレートな間接照明で奥行きを、壁一面の鏡でワイド感を、さらに天井まで届くスリット窓で高さを表現した玄関ホール。下右／建具や窓枠、家具などすべての線を揃えるように設計し配置した室内。特寸サイズの窓から見えるアオダモが四季を感じさせる。

● EXAMPLE REPORT DETAIL HOME

田上町 瀧澤邸 | 木造軸組工法 | 工期120日 | フリープラン

建築やインテリアが好きで、常に雑誌をチェックしていたという瀧澤さん。住んでいたマンションは、セレクトしてきた家具や雑貨に囲まれていたため、次に求める世界は、既に日々の生活の中にあった。そんな瀧澤さんが家を建てることになった。さて、どこに頼むか。

始めからハウスメーカーという選択はなかったという。「細かいところまで、こちらの声が届くかどうか不安で」と、その理由を語る。そしてインターネットや雑誌を見て抽出したのが地元ビルダー7、8社。いずれもスタイリッシュなデザインに定評があるところだった。「正直言うと、その中でディテールホームの順位は低かったです。ホームページの印象が今ひとつで。よって完成見学会も「見てみたいと分からないから」と最後の最後に軽い気持ちで行ってみたという次第。しかし、それがまさかの展開を生んだ。「使いたいと思っていた建具が標準装備で、収まりのいいシンプルな家だったんです。やり過ぎず、余白を残しているところもよかったです。早速、イメージを伝えるとラフスケッチがあがってきた。「暖かみのある手描きで、イメージしやすかったこともありますが、女性目線のパントリーや物干しなど、ちゃんと暮らしのことが考えられていたんです」。会社の図面は、瀧澤さんの思いの強さに応えようとするあまり、男性向きだったと振り返る。奥さまと二人暮らしの瀧澤さんは、完成後の生活も織り込まれたプランがしっくりきたのだった。



ディテールを極めたミニマルなコートハウス

造形的、装飾的な要素を削ぎ落とした平屋のコートハウス。こだわったのは、空間の最小単位である「面」と「線」だけで構成される美しさだ。

DETAIL HOME / 坂井建設株式会社



空間を構成する「面」と「線」を極めたミニマルな世界

シンプルで収まりのいい家にした。瀧澤さんのイメージは固まっていた。しかし瀧澤さんの言う「シンプル」は一般的に使われるそれとはまるで違っていた。すぐにはイメージを共有できないだろうと思った瀧澤さんは、まずディテールを細かく示した。直線、直角、平面で構成された空間。たとえば外壁のガルバリウムは継ぎ目のない一枚張りにすること、建具類は天井の高さに揃え、見切りの枠を見せないこと、窓ガラスは枠が構造部分に隠れるフレームインタイプにすること。「一言でいえば「空間」に余分な「線」やその線によって生まれる無駄な「面」を省くこと」だった。瀧澤さんに言わせれば「余計な「線」はノイズ」。造形的要素や装飾的要素を最小限に突き詰めたミニマルな空間ならば、セレクトしてきたインテリアをいかに、同時にインテリアが空間の余白の美しさをさらに引き出す相乗効果があるかと思ったという。

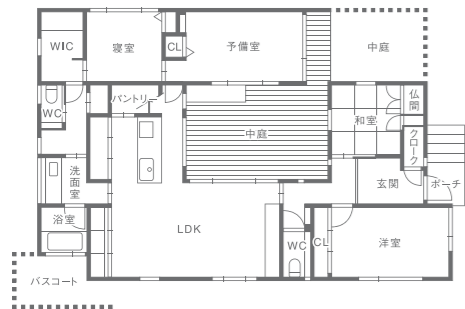
瀧澤さんの求める空間を実現するため、ディテールホームでは営業の金子康志さんを中心に、設計統括や現場担当者が、タッグを組んで当たった。最も時間がかかったのはダイニングキッチン裏の収納の戸の構成と引き手の溝だ。テーマは、戸をいかに壁面化できるかということ。設計統括の目黒誠さんは、収納の戸と見えないよう幅を検証

し、線を極力省ける、しかも機能的な入れ違い方を試行した。さらに取っ手は付けないで浅めの半円の溝を掘って引き手とした。その溝は1mm単位で幅を試し、決めたという。

「良質な美しい空間は、一つひとつのディテールを徹底的に検証し、デリケートな積み上げによってはじめて出来る。当然、手間も時間もかかるが妥協しなかった。この思いを家づくりに関わった人たちみんなで共有できたことは、完成した空間を見れば一目瞭然です」と瀧澤さんは言う。瀧澤さんに先回りして細部の詰めを提案した複数の設計担当者、造作家具を入れながらも設備や既製品をバランス良く提案し、コストコントロールをした金子さん。「知識と経験だけではまかなえない「センス」や「嗅覚」がすぐれているからこそできること」と瀧澤さんは続けた。

当初、ディテールホームに決めた理由には「押し付けがましくないデザイン」もあったという。ビルダーの色に染まるのは本意でなかったからだ。「一方のディテールホームは「住む方」一人ひとりを主役にする」という思いで家をつくっている。出会うべくして出会う、最良のパートナーだったからこそ生み出し得た最高の産物がこの家だ。

中庭を口の字型に囲む設計。L字型のリビングには2面の掃き出し窓から光が差し込む。家具や照明はもともと瀧澤さんが持っていたもので、TVボードとキッチンカウンターが新入り。キッチンカウンターはバナソニックのもので深澤直人デザイン



DATA

敷地面積 / 269.64㎡ (81.58坪)

延床面積 / 114.27㎡ (34.57坪)

1階面積 / 116.75㎡ (35.32坪)

工法 / 木造軸組工法

基礎 / ベタ基礎

断熱材 / アクリア

屋根材 / ガルバリウム鋼板

外装材 / ガルバリウム鋼板

内装材 / クロス

床材 / ミヤンマーチーク無垢材

開口部 / 断熱サッシ

キッチン / パナソニック

バスルーム / パナソニック

竣工年月 / 2013年11月

家族構成 / 夫婦

DETAIL HOME / 坂井建設株式会社

〒950-0931 新潟市中央区南長湯12-15

Tel 025-288-5535 Fax 025-288-5536

フリーダイヤル 0120-773-121

詳しい企業情報は「ビルダーズスクエア」をご覧ください。



ケータイからも資料請求できます。

資料請求して頂いた方先着30名様にカラフルキッチン5点セットをプレゼント。
※詳細は235ページをご覧ください。



LDKは、中庭のデッキと床の高さを合わせることで、継ぎ目のない大空間に。中庭に面した予備室や和室の窓の形を変えることで、切り取られる中庭の景色はさまざまに変化する



左 / トイレ内部と外の壁面のアクセントは上辺のラインを揃えたニッチで 右 / 2つの中庭に面した和室。障子は太鼓張り。照明はコーナー寄りに取り付け、さらに狭角のダウンライトにすることで遊び心と奥行き感を両立させた